

網膜投影型視覚支援機器の開発
株式会社QDレーザ

【 報告書PDF 0.4 MB 】

1. 全体の概要

200字程度で記述して下さい。

QDレーザで新たに開発したレーザ網膜投影技術と、市販のデジタルカメラとを組み合わせ、網膜投影の視野角を倍増させ、網膜の隅々まで高解像度の画像を届ける。広角から光学30倍ズームのデジタルカメラ画像を網膜上に直描する。

このことにより、網膜投影の得意とする前眼部疾患対応のみならず、網膜症の方々のQOL向上にも寄与する機器を提供することを目的とし、試作機を完成、モニター評価を実施した。

2. 開発した支援機器またはシステム RETISSA SUPER CAPTURE (RSC)

200字程度で記述して下さい。

今年度製作した検証機では、カメラは前年の検証で使った光学30倍ズーム付きのものを使用し、小型の投影部分を新たに製作して、アドオンを想定した筐体で小型軽量化薄型化を行った。前後方向の厚みが減り、携行性が改善した。

重量の約30%削減を実現。

バッテリー込みで432gと前年比30%軽量化。

バッテリーは外付けになっていたが、内蔵することにより見た目もスッキリとしたものになった。

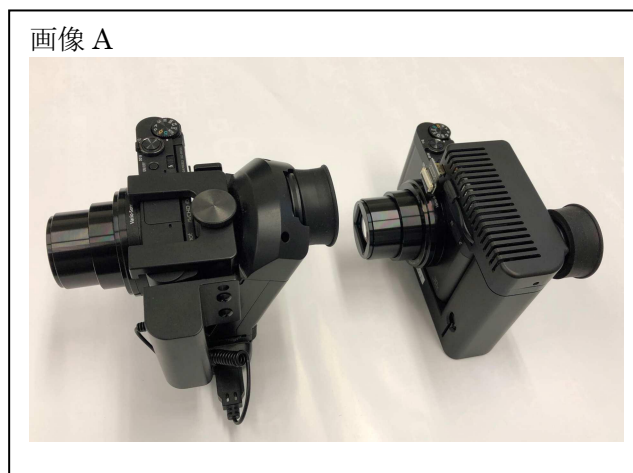


図1 前年度試作品（左）と今年度試作品（右）